

# いちのせき

広報

平成22年 12.15 No.126

主な内容

- 合併協定書に調印  
..... P 2~3
- いちのせきのもち  
..... P 4
- 暮らしの情報  
..... P 8~11



自分が楽しまないと  
相手に伝わらない  
お客さんの笑顔で自分も充電

道化師「クラウンろっく」  
として笑いを届けている

松谷俊克さん

3年前「クラウン」に出会い  
平成20年7月、初舞台を踏む。  
市教育委員会に勤務。宮前町。  
36歳



赤い鼻、大きな靴、だぼだぼのズボンがトレードマークの「クラウンろっく」。ジャグリングやマジック、バランス芸などをしながらおどけ、笑いを誘う姿を、最近市内外のイベントで見かけるようになりました。

「クラウン」道化師、おどけ者に松谷俊克さんが出会ったのは3年前。道化師・大棟耕介さんの本「ホスピタルクラウン」を紹介するチラシからでした。『よく、子どもたちに笑われます。よく、子どもたちにしかられます。それが僕の仕事です』のフレーズを見たとき、電流が走ったと松谷さん。以前からバンドや演劇など人前で表現する活動を行い、もっと広い年齢層に楽しんでもらえる「何か」を探していた時期でした。

20年5月には大棟さんが行うホスピタルクラウンの講習を受講。その後、岩手・宮城内陸地震が発生。教育委員会に勤務する松谷さんは避難所の運営に携わりました。その時、本寺小の保護者と知り合ったのが縁で同年7月、同小PTA行事でクラウンろっくとして初めて芸を披露。「お礼の言葉や子供たちの笑顔に力をもらった」と振り返ります。

「演じるのではなく、自分の長所を思いっきり表現することで笑いを誘うのがクラウン。子供たちは良いお手本になる」と松谷さん。二人のお子さんも一緒に芸を披露しています。

家庭、仕事とのバランスを調節しながら一生続け、「いつかは病院に笑いを届けるホスピタルクラウン」に挑戦したいと夢を抱きます。